

2025年2月19日（水）

『なぜ私がロータリークラブに入ったのか。』

～私の半生と使命～』

棚橋めぐみ 会員

真宗大谷派寺院の後継者として生を受けるも、女性が住職になれない、女性と男性では得度年齢が違うなどの、差別的宗憲によって90年代まで自分の生と性に悩んだ。

宗憲が改正され、女性と男性の得度年齢が同じになり、女性も住職となれるようになってから得度を受けて僧侶となった。

しかし、兼業寺院ゆえ、寺以外の仕事も考えなくてはならず、一般の大学へ行くも、俗世間のあり方に疑問を抱き、仏教修学の道へ。仏教専修から大学院を経て、博士号取得。その間も、真宗大谷派の宗務や大学や高校での講師を務めた後、女性初の教区駐在教導に。

しかし、過労などで重度のうつ病になり倒れ、人生が激変。DNA アクティベーションや占術によって命拾いをする。そこから形而上学^{けいじじょうがく}の道に進む。最速でモダンミステリースクール公認ガイドとなり、仏道とスピリチュアルと産業カウンセリングを統合して、日々人々の苦悩に向き合うも、40歳を前にしてもっと社会的に貢献したいと思うようになる。

そんな矢先に、岐阜県美術館の40周年記念事業のアンバサダーに突然なり、そこで大島愛子さんに運命的に出会う。そこで初めて岐阜北ロータリークラブのことを知り、夜間例会に参加し、岐阜北ロータリークラブの雰囲気によさと、世界的な奉仕団体であることに魅力を感じ、入会を決める。

真宗大谷派も人類に捧げる教団。モダンミステリースクールも世界平和、シャンバラ創生を目的としていて、どちらも見えない世界での世界平和のためにある。

でもこの世は物質世界。ロータリークラブは世界的に世界平和、貧困との戦い、ポリオ撲滅など、物質世界での世界平和に取り組んでおられる。見えない世界でも、物質世界でも、どちらでも世界平和に貢献し、僧侶や魔術師の本来の役割と権威の回復も含めて、私は岐阜北ロータリークラブに入会したのである。

